

**マクニカ・富士エレ ホールディングス株式会社  
(株式会社マクニカ分)  
平成27年3月期 決算説明会資料(プレゼン編)**

2015年4月27日

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

**目次**

**I 株式会社マクニカ  
2015年3月期実績(連結)**

**II 富士エレクトロニクス株式会社  
2015年2月期実績(連結)**

**III マクニカ・富士エレ ホールディングス株式会社  
2016年3月期業績予想(連結)、今後の方向性**

# I 株式会社マクニカ 2015年3月期実績（連結）

## 1 グループ実績

## 2 半導体事業実績（集積回路及び電子デバイスその他）

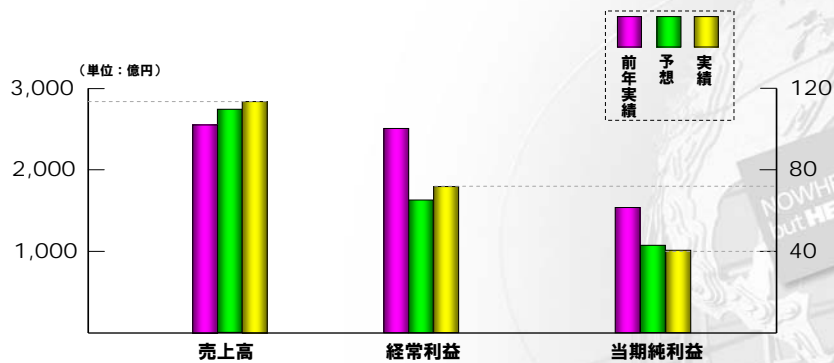
## 3 ネットワーク事業実績



## 1 グループ実績（連結）

I マクニカ 2015年3月期の状況

### ① 実績



	前年実績 (14/3)	予想 (15/1/26)	実績 (15/3)	前年比	予想比
売上高	2,560	2,790	2,847	11%	2%
経常利益	106	65	72	▲32%	11%
純利益	64	42	40	▲37%	▲5%

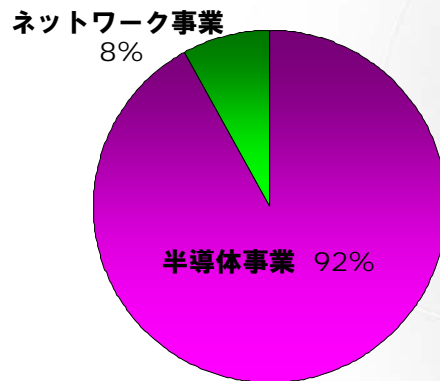


## 1 グループ実績（連結）

マクニカ 2015年3月期の状況

### ② 事業別売上高構成比

連結売上高2,847億円



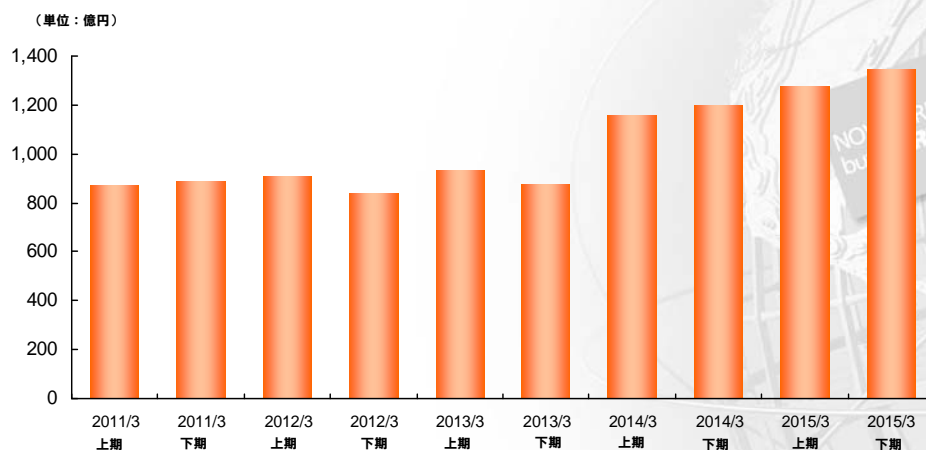
5

macnica  
技術会社の、その先へ。

## 2 半導体事業実績（集積回路及び電子デバイスその他）

マクニカ 2015年3月期の状況

### ① 半期毎売上高推移



6

macnica  
技術会社の、その先へ。

② トピックス

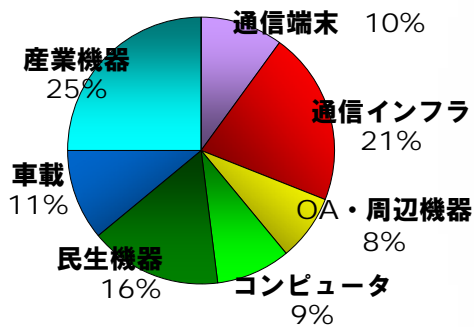
売上高2,625億円 前年比+11%

- 用途**
- 車載は、北米の堅調な需要環境に加え、新規ビジネスの立ち上がりなどにより順調に拡大。
  - 産業機器は、中国のセキュリティカメラ向けやFA関連装置などが好調に推移。
  - コンピュータは、中国のサーバー・ストレージ市場向けが拡大。
  - 通信インフラは、国内市場は減少したものの、中国のLTE基地局需要の継続により、ほぼフラット。
  - 通信端末は、特定の商品のサプライチェーン変更に伴い、当社ビジネスが減少。
- エリア**
- 円安の影響及び日系企業の海外への生産移管、アジアローカル市場ともに大きく拡大し、海外売上比率は前年比7%アップの41%から48%へ。



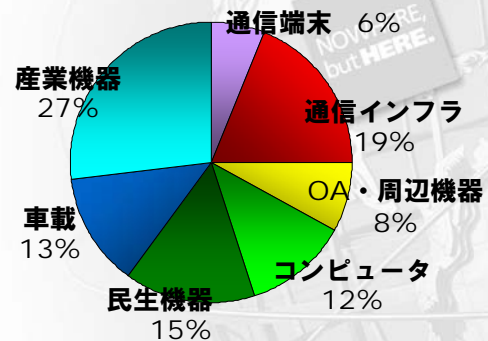
③ 用途別売上高構成比

売上高2,360億円



2014年3月期

売上高2,625億円

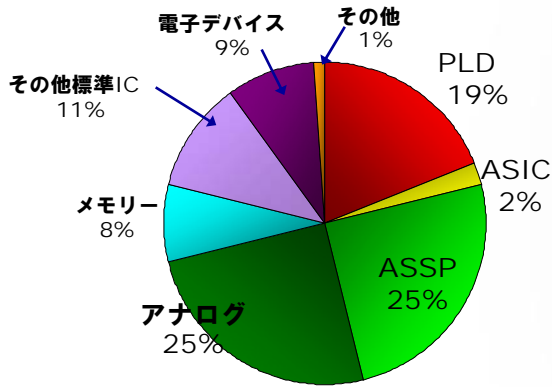


2015年3月期



④ 品目別売上高構成比

売上高2,625億円



品目別前年比

品目	増減率
PLD	+ 6%
ASIC	△ 3%
ASSP	+ 1%
アナログ	+16%
メモリ	+71%
その他標準IC	+ 9%
電子デバイス	+20%
その他	△29%
半導体事業計	+11%



① 半期毎売上高推移



② トピックス

売上高222億円 前年比+11%

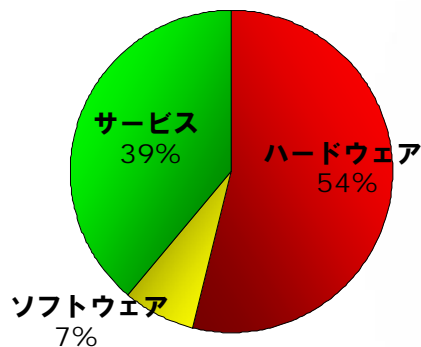
用途

- 官公庁や情報通信関連企業向けのネットワーク機器、標的型攻撃を始めとしたセキュリティ関連機器が堅調に推移。
- 一部のネットワーク関連ソフトウェアが需要一巡により減少。
- 大型案件の増加などにより保守サービスは好調に推移。



③ 品目別売上高構成比

売上高222億円



品目別前年比

品目	増減率
ハードウェア	+ 8%
ソフトウェア	△12%
サービス	+22%





Ⅱ 富士エレクトロニクス株式会社  
2015年2月期実績

1 グループ実績（連結）

2 用途別実績（単体）

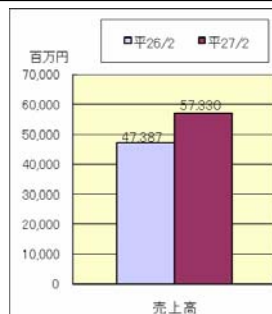
3 品目別実績（単体）

4 トピックス

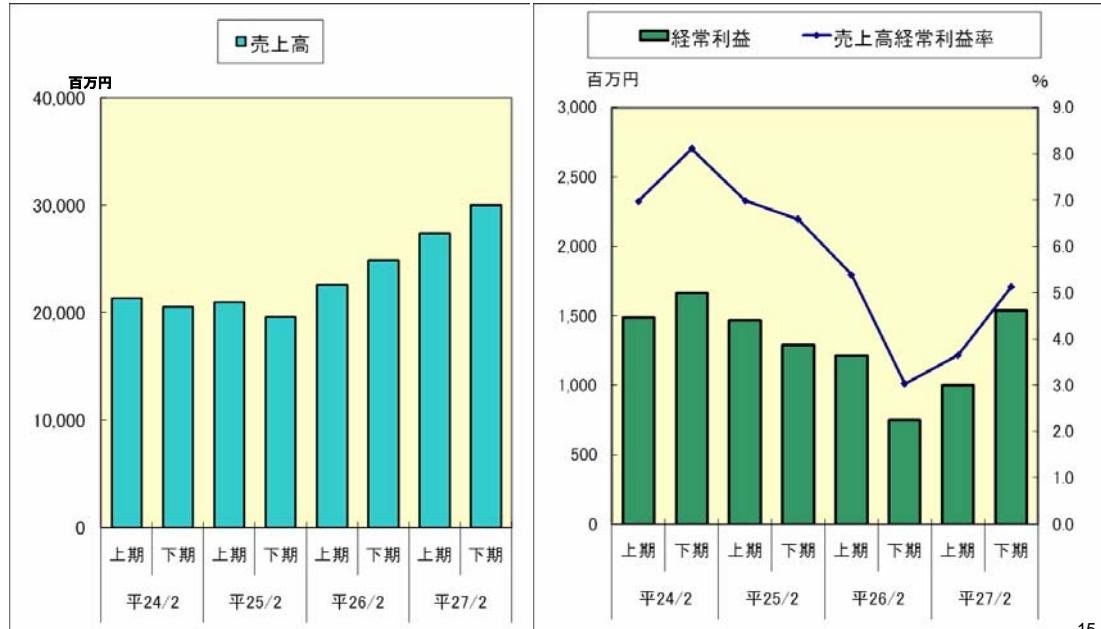
平成27年2月期 連結業績

百万円

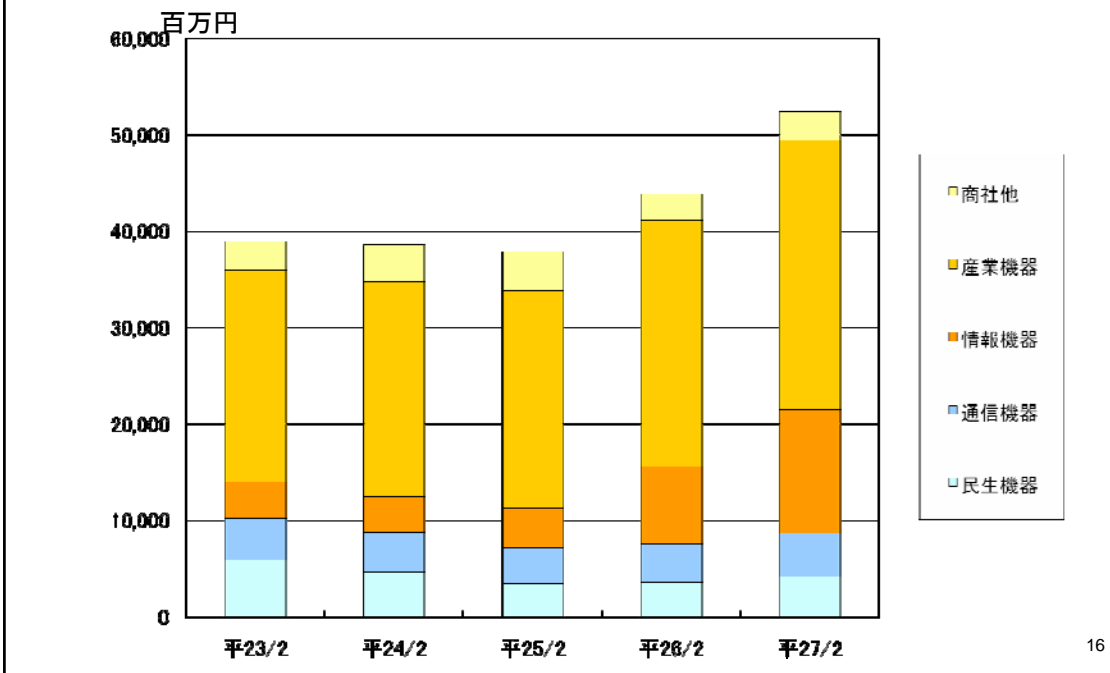
	平成26/2 実績	平成27/2 予想	平成27/2 実績	予想比 (%)	前期比 (%)
売上高	47,387	51,000	57,330	112.4	121.0
粗利率(%)	14.0	15.7	12.9		
営業利益	1,147	2,570	1,820	70.8	158.6
経常利益	2,028	2,610	2,538	97.3	125.2
当期純利益	1,463	1,670	1,617	96.9	110.5



### 連結業績の推移

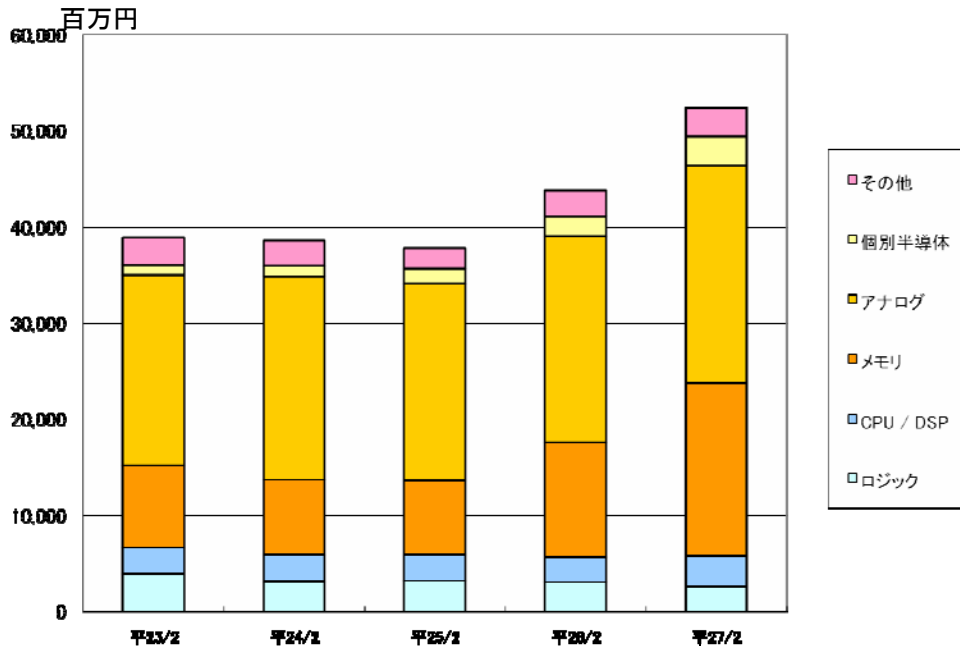


### 用途別売上高 (単体)





## 品目別売上高（単体）



## 平成27年2月期のまとめ

1. 当期の国内経済環境は、円安・株高の進行や、原油安の影響などにより企業業績は全般に回復基調となりました。海外では、米国は緩やかな回復が進行しております。一方、中国の景気減速や欧州通貨危機の再燃など不透明要素もあるなかで、全般には堅調な推移となりました。

半導体業界は、自動車関連やスマートフォン、タブレットPCなどが好調でした。また産業機器市場も、太陽光発電などで新たな設備投資需要が生まれるなど堅調な増加となり、世界の半導体市場は2年連続で過去最高を更新しました。

2. こうした中、単体では、主力の産業機器市場の緩やかな回復と商流移管の効果などにより売上は順調に増加しました。利益面では円安の進行による仕入価格の上昇から営業利益は期初予想に届きませんでした。売上増の効果により前年からは増収増益となりました。

その結果、連結では、売上は、予想比12.4%増、前期比21.0%増、経常利益は予想比2.7%減、前期比25.2%増となりました。

3. 連結子会社は、アジア地区では、香港、上海が海外直取引の増加などにより順調に業績を伸ばし、タイも単年で経常黒字化を達成しましたが、シンガポールは営業損失となりました。米国は宇宙向け大口案件の終息により減少しました。国内は一部円安の影響もあり、増収減益でした。

子会社合計では、前期比で 売上増で24.6%増、経常利益は3.8%減となりました。

## 平成27年2月期のまとめ

### 4. 用途別では、

メモリ大口先の情報機器向けは、昨年につきNAND FLASHが大幅増となり売上増をけん引しました。

FA製造装置・計測器・電源機器など主力の産機市場向けは、設備投資の緩やかな回復と商流移管により全般に好調でした。民生機器、通信機器なども堅調な増加となりました。

### 5. 品目別では、

メモリ製品が情報機器向けで大幅増加、次いでアナログ製品が産機市場向けが好調のため増加しました。

## Ⅲ マクニカ・富士エレ ホールディングス株式会社 2016年3月期業績予想（連結）、今後の方向性

1 グループ予想（連結）

2 半導体事業予想

3 ネットワーク事業予想

4 今後の方向性

## ① 2016年3月期予想

単位：億円

売上高	3,600
営業利益	120
経常利益	120
当期純利益	81

当期の連結調整の主なものとしましては負ののれんとして特別利益7.8億円見込んでおります。

## ② 2016年3月期予想（子会社別）

単位：百万円

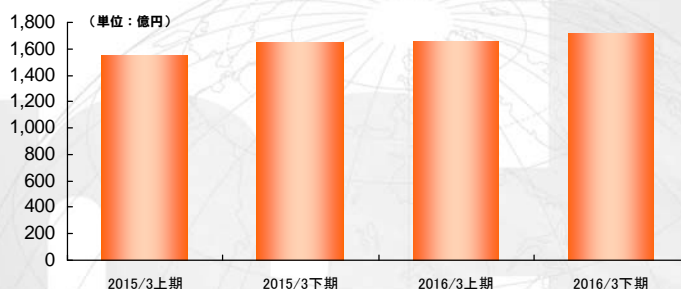
	株式会社マクニカ（連結）					富士エレクトロニクス株式会社（連結）				
	平成27年3月期実績		平成28年3月期予想			平成27年2月期実績		平成28年3月期（13か月）予想		
	金額	構成比	金額	構成比	前年比	金額	構成比	金額	構成比	前年比
売上高	284,673	100.0%	300,000	100.0%	5.4%	57,330	100.0%	61,000	100.0%	6.4%
営業利益	9,195	3.2%	10,000	3.3%	8.8%	1,820	3.2%	2,250	3.7%	23.6%
経常利益	7,200	2.5%	9,640	3.2%	33.9%	2,538	4.4%	2,610	4.3%	2.8%
当期純利益	4,018	1.4%	5,630	1.9%	40.1%	1,617	2.8%	1,720	2.8%	6.4%

注1. マクニカの平成28年3月期予想につきましては、厚生年金基金の解散に伴う費用を主たる要因として特別損失13億円を見込んでいます。

注2. 富士エレクトロニクスの平成28年3月期予想につきましては、連結対象会社は国内3社、また決算期変更に伴い平成27年3月から平成28年3月までの13か月の予想数値となります。

## ① 半期毎売上高推移

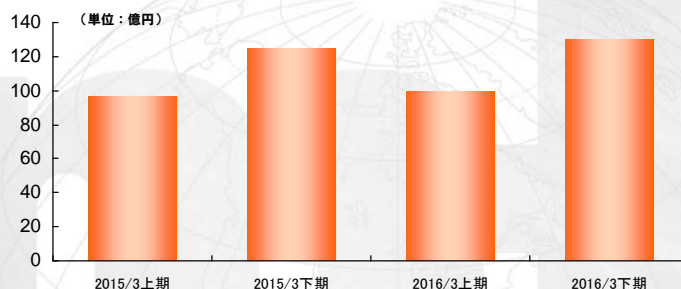
- 通信インフラは、国内のLTE-Aは成長するものの、その他の設備投資は減少する見込み。中国はLTEを中心に引き続き好調を予想。
- コンピュータは、中国のサーバー・ストレージ市場向けが引き続き拡大予定。国内の同市場向けも堅調に推移する見込み。
- 車載は、新規ビジネスが順調に立ち上がり、伸長する見通し。
- 産業機器は、半導体製造装置、医療機器、FAなど全般的に好調を維持。



注1. 2015年3月期の実績：マクニカ2014年4月1日～2015年3月31日、富士エレクトロニクス2014年3月1日～2015年2月28日  
 注2. 2016年3月期の予想：富士エレクトロニクスは決算期変更に伴い、2015年3月1日～2016年3月31日まで13か月の見込み数値

## ① 半期毎売上高推移

- 企業のセキュリティニーズの高まりにより、標的型攻撃に対応する高度なセキュリティ対策を始めとするセキュリティ関連製品は引き続き拡大の見通し。
- クラウドサーバー向けのネットワーク機器は 堅調に推移する見込み。



① 経営統合の目標（シナジー効果の発揮）

取扱商品・顧客基盤の拡大  
による成長力の強化

中堅・中小顧客に対する付  
加価値の高いソリューションの  
提供による取引の拡大

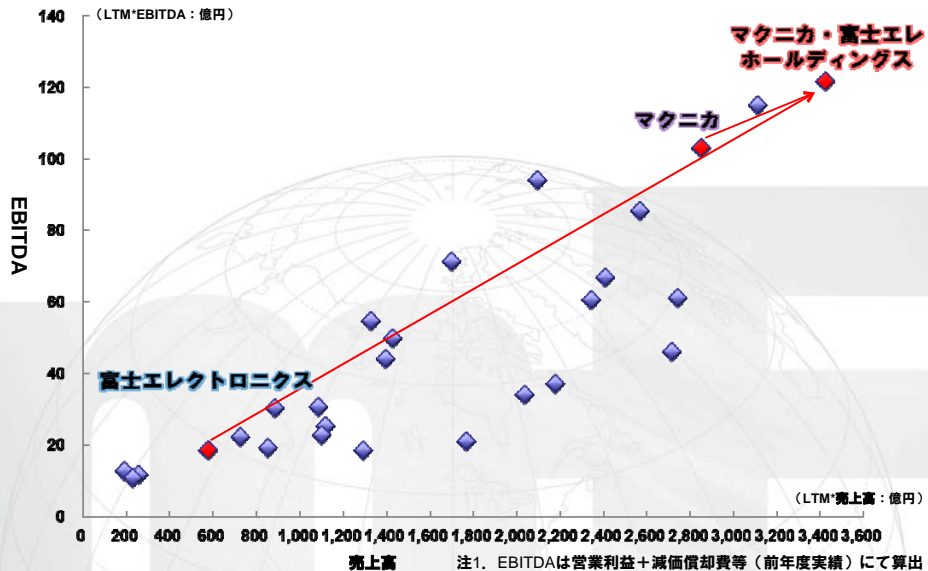
国内においては全ての顧客取引でトップ、そし  
てグローバルで、デマンドクリエーション・カ  
ンパニーとしての存在感を高めることを目指す

情報システム、物流等の機  
能の効率化・合理化による  
生産性・経営効率の向上

組織・人材の融合による  
経営基盤の強化

② シナジー効果発揮に向けた取り組み方針 -1

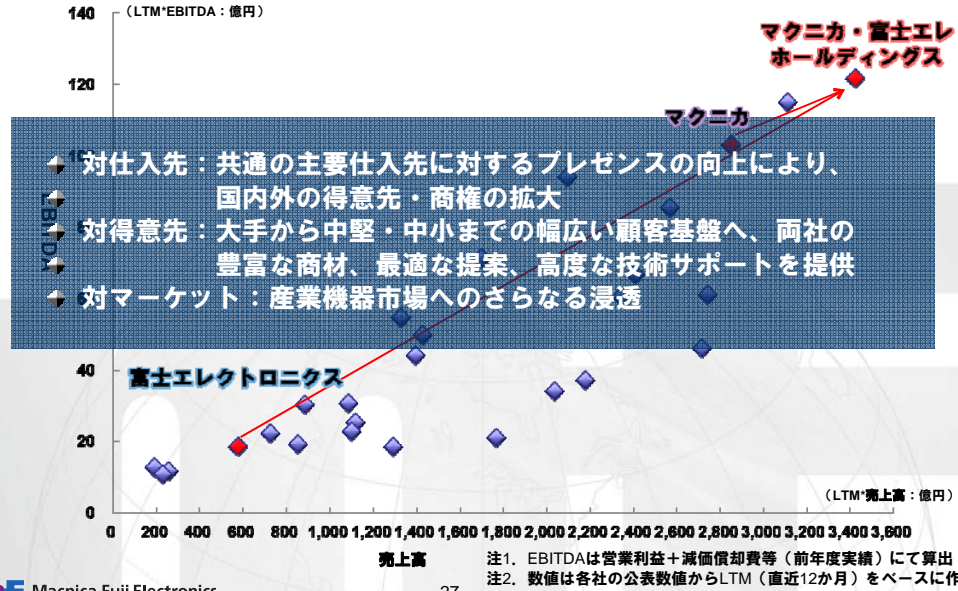
■ ポジション・アップに向けて





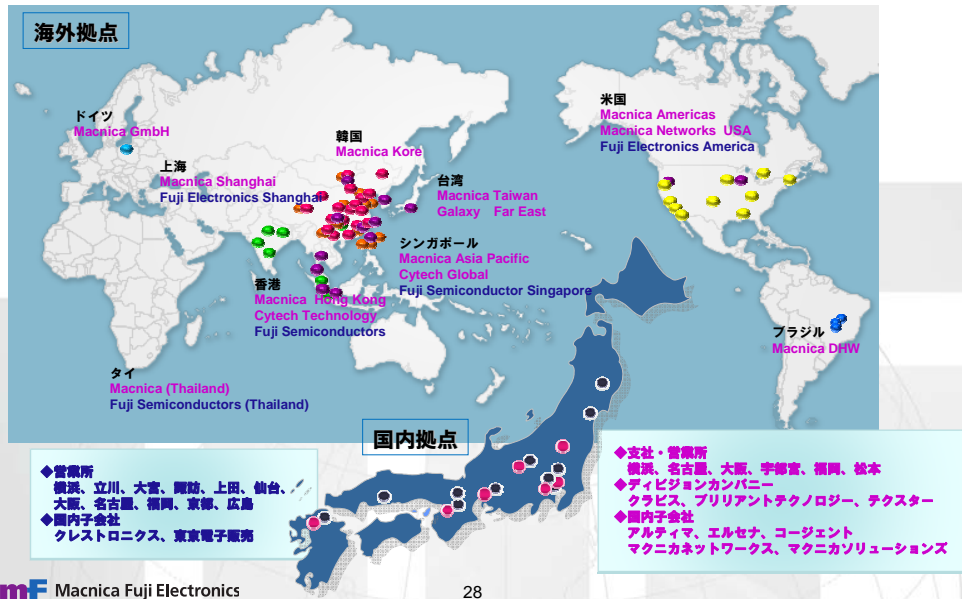
② シナジー効果発揮に向けた取り組み方針 -1

■ ポジション・アップに向けて



② シナジー効果発揮に向けた取り組み方針 -2

■ シンクロ効果発揮に向けて



## ② シナジー効果発揮に向けた取り組み方針 -2

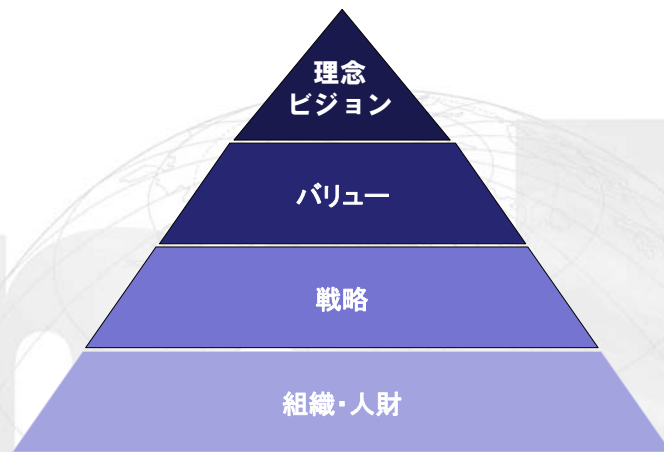
### ■ シンクロ効果発揮に向けて

紫:Macnica  
青:Fuji Electronics



## ② シナジー効果発揮に向けた取り組み方針 -3

### ■ 経営基盤の強化に向けて





## ② シナジー効果発揮に向けた取り組み方針 -3

## ■ 経営基盤の強化に向けて

理念  
ビジョン

- ➡ グループとしての理念・ビジョン・バリューの共有化
- ➡ 戦略に応じた組織づくり・お互いの関係の質を高める仕組みづくり

統合委員会での検討を得て、現在、ホールディングスの各組織が旗を振り、戦略、体制などテーマごとに推進中。今後、新グループが目指す姿やビジョン・戦略は、まとまり次第発表していく予定。

社報「八咫

## ③ 株主還元

## ■ 配当予想と配当方針

株主の皆さまの日頃のご支援に感謝の意を表すとともに、この度の経営統合および東京証券取引所市場第一部指定を記念いたしまして、平成28年3月期の期末配当において1株あたり5円の記念配当を実施させていただくことといたしました。この結果、平成28年3月期の1株あたりの期末配当は、普通配当35円とあわせて40円となる予定であります。

配当の回数につきましては中間配当並びに期末配当の年2回を原則としておりますが、当連結会計年度に関しましては、マクニカ・富士エレ ホールディングス株式会社発足の初年度ということもあり、期末日を基準とした年1回の配当を予定しております。

## ■ 株主優待に関して

株式会社マクニカが実施しておりました株主優待に関しましては継続の方向で検討しております。詳細に関しましては、決まり次第お知らせいたします。